ポラリス

札幌社会保険総合病院　院外広報誌

第14号
2009年10月

●第４回　日本禁煙学会学術総会
●ピンクリボンキャンペーン
●医療の現場から①②③
●ホームページ紹介
●第５回　七夕の夕べに参加して
●こんにちは、医療連携室です　No.11

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国の中心で悠久に燦然と輝き続けたいという願いが込められているのです。
題字は秦院長の直筆です。

全社連
URL　http://www. sapporo-shaho. jp/

第４回　日本禁煙学会学術総会
― 秦院長が会長を務めて盛大に開催 ―

9月12日(土)・13日(日)に当院院長の秦温信を会長とし、第4回日本禁煙学会学術総会が開催されました。

本学術総会は『タバコのおいしい空気を－受動喫煙ゼロをめざして』をメインテーマとし、会期中は会場となったシェラトンホテル札幌を全面禁煙化していただきました。2日間で、一般演題は口演87題、ポスター発表33題、計120題の演題の発表が行われました。

初日の開会式では、北海道知事の代理として高井修北海道副知事にご挨拶をいただきました。

また、特別講演１にはSimon Chapman氏を、特別講演２にはHarley Stanton氏を講師に迎え英語でのご講演をしていただきました。同日のシンポジウムには、現・神奈川県知事である松沢成文氏を基調講演の講師としてお迎えし、『受動喫煙防止条例が目指すもの』と題して、神奈川県の禁煙条例を制定するまでの過程やご苦労されたことなどをお話しいただき、高橋はるみ北海道知事からは北海道の禁煙の取り組みについてのメッセージをいただきました。その後、シンポジストによる討論がなされ熱い意見が交わされました。

会員懇親会（アサヒビール園）では、『夢想連えさし』の皆さんによさこいソーランをご披露いただき、ジンギスカンとともに堪能させていただきました。

翌日13日には、全てのプログラムを無事終了し、閉会式を終えることができました。その後、同会場にて北海道医師会・禁煙推進医師歯科医師連盟北海道支部との共催で「第６回北海道禁煙フォーラム」を兼ねた「市民公開フォーラム」を開催いたしました。

第１部では、北広島市を拠点として活動されている少女合唱団「Bella Rosa Coro」の皆さんにかわいらしい歌声を披露していただきました。

第２部として、元日本ハムファイターズヘッドコーチの白井和幸氏による「野球選手の禁煙推進について」、札幌医科大学第２内科の島本和明教授による「心臓を守るために禁煙を」、深川市立総合病院の松崎道幸内科医長による「メタボと禁煙―健診の重要性」とそれぞれのお立場から喫煙の害と禁煙についてわかりやすくお話ししていただきました。

以上のように、会期中の学術総会参加者は約640名、市民公開フォーラム参加者は約150名と盛会のうちに終了することができました。今後、この学術総会が地域の禁煙活動の一助となりますことを願っております。

本学術総会へご参加・ご協力いただきました地域の先生方に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

（北村記）

ピンクリボンキャンペーン
～健康管理は愛する人の為に～

健康管理センター 科長　岩 田 佳 代

皆さん「乳がん・子宮がん検診」受けてますか？

現在、乳がんは女性のかかるがんの第1位であり、30歳代から60歳代ではすべてのがんの中で乳がんの死亡率がトップとなっています。しかし、がん検診をうけている方は国民の20%にも及びません。なぜ受けてないのでしょう。確かめることは時として怖くて避けたいこともあります。「面倒だから」と先送りにしたり、「自分は大丈夫」と思い込んでいる方もいるのではないでしょうか。むやみにがんを怖がるのではなく、早期発見して治療する、常に体をチェックすることを習慣にしましょう。

現在、乳がん・子宮がん検診の受ける間隔は2年に1度となっております。自分はもとより家族や周囲の知人の方と一緒に受けましょう。

10月は乳がん撲滅ピンクリボンキャンペーン月間です。各地で様々なイベントが行われています。当院でも10月24日（土）はシェラトンホテルで「乳がん死亡ゼロをめざして」と題し、乳がん体験者や治療に携わる医師、検診に携わる保健師より講演会を開催いたします。参加は無料です、是非たくさんの方に足を運んでいただきたいと思います。又翌日25日（日）は当院健診センターにて乳がん・子宮がん検診Dayを開催します。がん検診を受けたことのない方、相談コーナーや乳がん・子宮がんについてのお話、乳房モデルの展示などもご用意しております。この機会に是非、がん検診を受け女性のがんについて考えて見ましょう。

乳がん検診の比較試験

『J-START』への参加募集

乳がん検診における「マンモグラフィ検査のみの検診」と「マンモグラフィ検査に超音波検査を併用する検診」の比較試験をしております。ご参加してください。

ピンクリボン企画 1日目

市民公開フォーラム「乳がん死亡ゼロをめざして」

日　時　平成21年10月24日（土）　13:30～15:30
会　場　シェラトンホテル札幌
入場料　無料

基調講演　司会　秦　温信（札幌社会保険総合病）

「乳がん患者の立場から」
関川　正美（あけぼの会北海道支部）

講　演　司会　岡崎　裕（新札幌乳腺クリニック）

「乳がん診療の実際」
湯山　友一先生（新札幌乳腺クリニック）

「乳がん検診の重要性」
岩田　佳代（札幌社会保険総合病院　健診センター　保健師）

相談コーナー

医師・保健師・看護師・薬剤師が乳がんに関するあらゆる相談に応じます。

お問合せ先
札幌社会保険総合病院　図書室
電話 011-893-3000 FAX 011-893-4001

ピンクリボン企画 2日目

乳がん・子宮がん検診Day

女性の皆様!!　乳がん検診・子宮がん検診受けていますか？

そんな貴方！ 是非「乳がん・子宮がん検診Day」をご利用ください。

日　時　平成21年10月25日(日)　①8:00～　②9:00～
＊検診は完全予約制です　011-893-5881（月～金 午後1～4時）
内　容　乳がん検診（視触診と年齢によってマンモグラフィか超音波検査）
子宮がん検診（子宮頸部細胞診）
パネル・乳房モデルの展示と子宮・乳がんのお話、健康相談（保健師が伺います。）
検診料金　乳がん検診（40歳以上）
札幌市民の場合……40歳代偶数年齢　1,800円
50歳代偶数年齢　1,400円
子宮がん検診（20歳以上）
札幌市民の場合……偶数年齢　1,400円
※奇数年齢・札幌市以外にお住まいの方は料金が変わります。お問い合わせください。
※子宮がん検診/乳がん検診無料クーポン券をお持ちの方はお申し出ください。

心配なことはたくさんあると思いますが、3人に1人は「がん」と診断されるこの時代　早期発見・早期治療で元気な生活を送れるのであれば・・・「がん」を怖がらず、自分の健康を確認しましょう!!

お問合せ先　札幌社会保険総合病院　健診センター
電話 011-893-5881 FAX 011-893-8150
e-meil ssighhel@ruby.ocn.ne.jp

医療の現場から①

尿検査からわかること

腎臓内科　佐　藤　亜樹子

みなさんは、健康診断を受けていますか？

一生涯にわたって、日本ほど健診制度の整った国はありません。ほとんどの病気は自覚症状がないままに進行します。会社員であれば、健診を受けることは法律で義務付けられており、会社員でない場合（主婦や高齢者など）は、自治体などで無料で行っている場合もあります。地域の役所に問い合わせてみましょう。

今回は、健診に含まれる検尿のお話です。検尿で「蛋白尿」をみた場合、まずは病的かそうでないかを調べます。起立性蛋白尿、激しい運動後に出現する運動性蛋白尿、高熱時に見られる熱性蛋白尿などは、一般的には病気ではなく、治療の必要はありません。

しかし、急性・慢性腎炎などの腎臓に限局した病気や、糖尿病、膠原病、高血圧など全身の病気の一部として腎臓に障害が起き、出現する蛋白尿があります。初期の糸球体腎炎は採血では異常を認めず、検尿だけが発見の手段です。近年、慢性糸球体腎炎による透析導入患者は減少傾向にあり、これは検尿による早期発見、早期治療開始の成果と考えられています。

尿検査だけでも、たくさんの情報を含む健康診断。これを受けないのは、もったいないとは思いませんか？そして、さらに大切なこと!! 健診で「医療機関の受診」を勧められた場合、何の症状もないから大丈夫…とは考えず、必ず病院を受診してください。

医療の現場から②

少子化と老齢社会から思うこと

産婦人科　金　山　宣　夫

少産少子と言われて久しいが、毎年母子保健事業団から出ている、「母子保健の主なる統計」の人口と出生によると、最後の大戦後の昭和22年は267万余人と戦後の第一次ベビーブームを作り団塊の世代ができました。昭和36年（1,589,372人）を底にして出産はまた増えだし、昭和48年（2,091,983人）をピークに戦後の第二次ベビーブームになりました。そしてまた暫時出産は減り始め、平成元年から120万人台まで減少します。そして第二次ベビーブームの子供達が20代後半から30代前半の生殖年齢になっているのに、平成11年からは120万も切って平成18年は108万6千人です。第三次ベビーブームがないのです。

平成元年から平成の18年間の出産は平均して117万6千余人／年。この数字は、昭和48年生まれ今年36歳の人の56.2%、6割生まれていないのです。これは平成生まれの子供達が男も女も全員働いてくれても、今のこの便利な日本の生活レベルは維持できないと言う数字です。そして14歳以下の年少人口の減少は、経済的にも消費人口の減少につながり、小児・子供対象の産業や職業が大きな影響を受けています。36年前の半分ちょっとの消費なのです。景気が良くならないのは当たり前です。消費人口の減少は、第3次産業、お客さんの数によって仕事している職種も同じように影響を受けています。また生産年齢人口（15～64歳）が減少して第2次産業では、仕事があるのに働く人がいないため破産が増えてきます。

病院経営も国の医療費削減だけでなく、看護師減少で職員不足のためベットが使えなくなり、閉院が近い将来起こり得るのです。こんなことから考えられる日本の近い未来は、男も女も全員働く共稼ぎが普通の家庭の形態になっているし、年をとっても定年がなくなり第２の就職で死ぬまで働く時代になっていると思います。働ける間は生活ができるのです。問題は働きたくても身体を壊して働けなくなったとき誰がその面倒を見るかというと自分の家族や子供しかいません。自分の老後を考えるとき、子供の少ない人は悲惨です。いくらお金があっても介護施設は働く人が居ないし常に被介護者はいっぱいで、簡単には他人に面倒を見て貰えないのです。ですからこれからの若い人たちは早く結婚して、経済的には大変でも自分の老後の介護を考えたら女の子を３人、男の子も育てたいから子供は４人から５人は作らないと駄目な計算になります。これは国のためでなく自分のためなのです。

是非お産は、当院の産科で！待っています。

医療の現場から③

冠動脈ＣＴ検査

循環器科 部長　中 原 学 史

従来、狭心症、心筋梗塞の原因となる冠状動脈（心臓の筋肉に血液を送る血管）の狭窄部（狭い箇所）を発見するには、心臓カテーテル検査を行うのが一般的でした。

しかし、カテーテル検査では手足の動脈に直接針を刺し、その中から細い管（カテーテル）を直接心臓まで進めて造影剤を冠状動脈に注入する侵襲的な検査であるため、胸痛のあるような、虚血性心疾患の可能性の高い患者さん、あるいは手術適応の精査等、冠動脈の評価の必要性の高い方を選択し、カテーテル検査を行ってきました。残念ながらカテーテル検査では穿刺部からの出血、稀には脳梗塞などの塞栓症のリスクが避けられず、また、止血を確認するために検査後の入院も必要でした。

近年めざましい診断機器の性能の向上により、マルチスライスＣＴを用いた冠動脈ＣＴ検査が発達し、わずか数秒ほどの撮影（呼吸止めは約15秒）で心臓カテーテル検査と同等に近い診断結果を得ることができるようになってきました。点滴をするように腕の静脈から造影剤を注入し、冠拡張薬、抗不整脈薬（脈を遅くする）を内服して撮影をするだけですので、特別な止血の必要がありません。検査終了後はすぐに帰宅することができ、カテーテル検査に比べ身体の負担が少なく、合併症の発症率も少ない検査です。

当院でも昨年７月に64列のマルチスライスＣＴが導入され、１年で約500人の患者様が検査を受けられ、大きな合併症もなく検査が施行されております。

このため、冠動脈ＣＴの導入により冠動脈評価の適応は拡大、自覚症状がなくても糖尿病、高血圧、脂質異常症、脳血管疾患の家族歴のある方、喫煙歴の長い方など、虚血性心疾患の危険因子をお持ちのかたに簡便に冠動脈の評価が行えるようになってきました。日本での心筋梗塞発症数は年間約15万人といわれています。年あたりの発生率は、千人あたり、男性1.6人、女性0.7人。（米国では、男性7.1人、女性4.2人）発症平均年齢は、男性60代前半、女性70代前半となっています。心筋梗塞の致死率は30%～40%と高いため、心筋梗塞に至る前に冠動脈の狭窄を発見し、治療することが重要です。

冠動脈ＣＴは心拍数や不整脈の影響を受け、ステントや石灰化病変（動脈硬化が強いところ）の評価が困難であるなどの欠点はあります。しかし、簡便に行うことができるため、いままでよりも多く虚血性心疾患の可能性のある患者さんをより早期に評価、精査することが可能となります。自覚症状のないような患者さんについても冠動脈の評価をすることで、虚血性心疾患を早期に発見できるようになります。

（高血圧症・脂質異常症・糖尿病・喫煙・家族歴のある方・メタボリックシンドロームでは早めの検査をお勧めします。）

ホームページ紹介

http://www.sapporo-shaho.jp/

皆さん、当院のホームページを知っていますか？

URLは、http://www.sapporo-shaho.jp/ です。

札幌社会保険総合病院のホームページは、平成15年2月に作成され今年で7年目を迎えました。その間、29万5000件のアクセスと多くの皆さまに閲覧していただき、職員一同、感謝しております。

掲載ページは、職場内外の皆さまから多くのご意見を取り入れ、現在の形まで成長してきました。

当院のホームページは、患者さま、医療関係者、医療関連の学生など幅広い層の閲覧者に対して、当院の情報を広く網羅し掲載することを心がけながら毎月1回、院内のスタッフでホームページミーティングを開催し、内容の修正、更新を行っています。更に、掲載している内容が時期的に古くならないように情報は逐次、更新掲載を心がけています。

特に、例年4月は、各科の医師の移動や変更、各病棟の特色などホームページ内容が大幅に変更更新されています。各科一般外来紹介を充実させるとともに「助産師外来」、「ストーマ外来」、「乳腺外来」、「禁煙外来」、「腎臓病教室」のご案内を掲載しております。

「イベント報告」では、季節に合わせて院内ロビーなどで行われている記念講演やイベントに地域の皆さまに多数参加していただきたく、ホームページ開設初年よりイベント告知と結果報告を行っています。

例年、当院では「市民公開フォーラム」、「ひな祭り」、「看護の日」、「七夕の夕べ」、「特別講演」、「クリスマスの夕べ」、など多くのイベントや講演を開催し、地域の方々との交流を目指して歌や踊りなど実施しています。「健診センターのご紹介」や「医療ニュース」など地域の皆さまにとって必要な情報も逐次更新しております。

これからも当院に関する情報を幅広く掲載し、多数の皆さまに閲覧していただけるよう更新していきます。札幌社会保険総合病院のホームページを一度ご覧になってみてください。

（広報部ホームページ担当　田附　満）

平日午後2時から5時までの間の予約及び予約変更専用電話一覧

●総合診療科	893-3000
●内科（消化器科・循環器科・呼吸器科・リウマチ科・糖尿病・腎臓病）	893-3046
●小児科	893-3048
●外科	893-3091
●整形外科	893-3098
●皮膚科	893-3124
●泌尿器科	893-3154
●産婦人科	893-3159
●眼科	893-3172
●耳鼻咽喉科	893-3174
●内視鏡室	893-3267
●リハビリ	893-3287
■健診センター	893-5881
■腎・透析センター	893-3000

全社連 札幌社会保険総合病院

診療受付時間　午前8時～11時・午後1時～3時
面会時間　午後1時～午後7時30分
TEL 011-893-3000 FAX 011-893-4001
医療連携室直通 011-893-5884

第５回　七夕の夕べに参加して

手術室看護師　四　元　亜矢子

８月７日　午後５時から当院エントランスホールで「七夕の夕べ」が開催されました。

連日どんよりした天気でしたが、当日は素敵な夕陽に包まれました。南国の音色に誘われるように、用意していた椅子が足りず追加で出す程、多くの方が参加されました。

会場の笹には「病気が早く治りますように」「夢で逢えますように」など、様々な願いが書かれてありました。

第１部　ウクレレの歌と演奏

「知床旅情」や「憧れのハワイ航路」などウクレレによる音色やハワイアンの衣装で、すっかり南国の雰囲気☆「上を向いて歩こう」では会場みんなで合唱し、大いに盛り上がっていました♪

第２部　フラダンス

たくさんのフラダンサー部によるフラは、どのチームも優雅でうっとりさせるものでした。中でも、小さな女の子の踊りが始まると、「一緒に踊りたい！」と、一番前に出て見入る子供達の姿もあり、楽しそうでした♪

最後にはアンコールが出る程！ダンサー全員による踊りは見ごたえ抜群☆

会場に来ていた患者様からは「こんなに長く座っていたのは久しぶり。でも全然つらくなかった。楽しかったわ。連れて来てもらって良かった。」という言葉を頂きました。

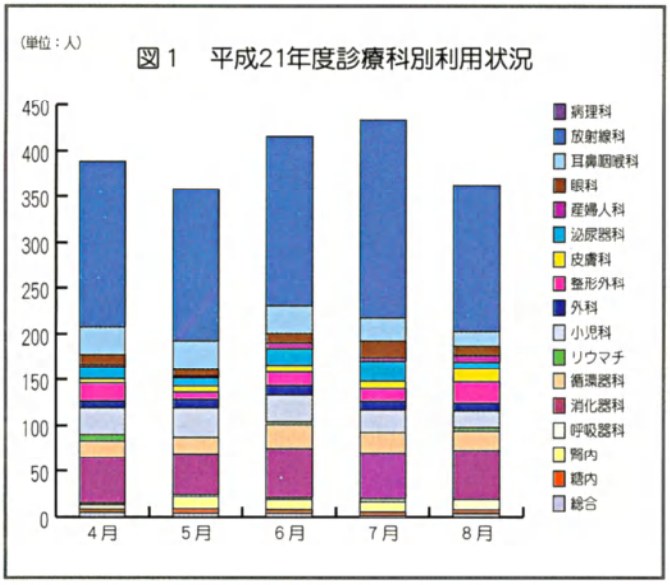
会場に溢れていた笑顔と共に、皆さんの願いが天に届きますように…☆

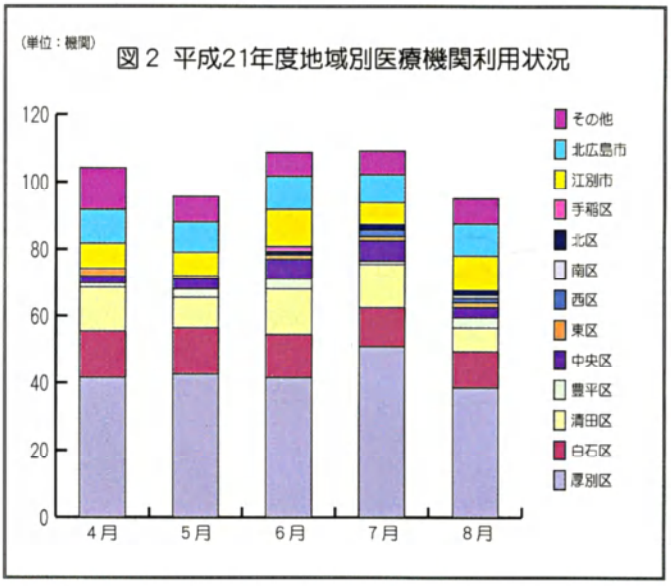
こんにちは、医療連携室です　No.11

いよいよ秋も深まって参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

平成21年８月現在の診療科別利用状況（図１）と地域別医療機関利用状況（図２）を報告させていただきます。

診療科によっては予約が込み合う場合もございますが、ご希望の日時がございましたら調整させて頂いておりますのでご相談ください。





編集後記

朝晩すっかり冷え込むようになり，秋の風を感じる今日この頃です。食欲の秋、読書の秋、皆さんはどうお過ごしですか？

今年度ももう半分が過ぎようとしています。早いものです…。子供の頃はもっと時間の経つのが遅かったように思うのですが…あの頃に戻れたらなぁ…なんて夜空の星に問いかけてしまいます。

大人になると何だかんだ忙しい毎日です。インフルエンザが流行っているこの季節、美味しいものをたくさん食べて、十分な睡眠をとって健康管理に気をつけてください。（中野渡記）

編集委員　相川・小林・有賀・嶋宮・中野渡・新谷・佐藤・細谷・土田・北村

発行責任者：秦 温信
発行：〒004-8618 札幌市厚別区厚別中央2条6丁目2番1号　札幌社会保険総合病院